

石川南

修復の台車 住民に披露

美川和波町 来月のおかえり祭り

5月16、17日に白山市美川地区で行われる「真無形民俗文化財「おかえり祭り」」を記念して、住民に披露される修復を終え、住民に披露された。美川和波町の台車が31日、約9カ月間にわたる修復を終え、住民に披露された。美川和波町の台車が31日、約9カ月間にわたる修復を終え、住民に披露された。



美川和波町の台車は天保年間(1830～44年)に作られ、その後、大火で焼失したとされる。現在の台車は19



井出市長(右)にマスクインナーを手渡す小松マテリアルの松尾常務(左)。能美市役所。

マスクインナーを寄付

小松マテリアルは31日、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、市内のマスクの内で使用するマスク700セットを寄附した。市職員がマスクインナー、内光でウイルスを低減させる触媒を使用したウイルス

小松マテリアルが能美700セット、光触媒

31昭和6年に住民有志が協力して建造したが、63年に解体修復して以降は大幅な改修は行わず、老朽化が進んでいた。北村工務店美川和波町の北村代表(55)が車輪の木材を加工し、北島仏壇製作所美川新町の4代目塗師北島昭浩さん(55)が漆

小松市制80周年 こいのぼりを特注

5月5日の端午の節句に合わせ、小松市中心部にイメージキャラクター「カブッキー」をかたどった「こいのぼり」が掲げられる。今年、市制80周年を祝おうと、市が地元「形店」に制作を依頼した。同店の社長が自ら筆を執り、子どもたちの健やかな成長を願いながら生地「愛らしいイラスト」を描き進めている。

来月、芦城公園でお披露目

こいのぼりを作るのは、八日町の人形専門店「カセの北川昇三社長(79)」。幼少期から絵が好きだった北川社長は小松高美術部時代に腕を磨いた。人形店の2代目となったからは商品の絵柄などを手掛けている。

いぼり、市章を入れた吹き流しとともに5月2日から約1カ月間、芦城公園の大藤棚のそばに飾られる。市制80周年を記念して開かれる「賑いの会」のオープニングで、お披露目される。毎年、端午の節句に合わせて掲げる予定だ。

北川社長は4月中旬にも完成させたうえで、「新型コロナウイルスの影響で思い切り遊べない子どもがいる。カブッキーのこいのぼりがうまく空を泳いで、皆に喜んでほしい」と話した。



アノウ 見て朝

小松